

平成27年度企画提案型競技力向上対策事業
バスケットボール少年女子 HC 屋嘉謙呉

これまでの問題点

- ①. チームとしての対外試合に乏しく、個人の経験値に対してチームとしての経験値が足りない。
- ②. チームゲームである以上、勝利するための戦略を修得するため、より経験値の高いコーチ招聘により学習する。
- ③. いくつかの高校から技術的に高い選手は選抜されるが、国体前後において県内大会の勝敗が決まるため、モチベーションの持ち方に誤差がある。
- ④. 国体上位チームとの比較による強化日程の持ち方。

今回の対策

- ①. 今年の国体は少年女子全県参加ということもあり、九州全県及び愛媛県、神奈川県、計10チームによる強化練習試合が福岡県で行われた。(7月18・19日)

18日：大分県 熊本県 愛媛県 宮崎県と試合をした。チームとしてかみ合わないスタートから全国強豪の愛媛県に勝利し、宮崎県と対等に戦うことができ手ごたえを感じる。19日：長崎県 大分県 鹿児島県において勝利し、成果を得る。

強化試合を通してチームとしての経験値の必要性和今後の課題が見つけれられた。

- ②. 招聘指導者 キム ピョンオク (大韓民国 79歳)

1994～2003 日鉱共石 現 JX ヘッドコーチ

WJBL リーグ、オールジャパン5度の優勝

分かりやすい言葉で丁寧な指導をして頂いた。

コーチングスタッフ⇒ゲームの状況を読み取りシンプルな対応がとてもわかりやすい。沖縄の選手の特徴を捉え柔軟な発想に学ぶことが多かった。

プレイヤー⇒メンタル的な要素を中心にタフさが足りないことを指摘され、スキルに対してはシュート力、及びリバウンド力が課題の重要事項となった。

- ③県内大会の合間による強化練習ではなく、1年を通しての練習の必要性を感じる。

- ④国体上位チームと比較及び対策

国体上位チームには単独チームまたは数名の補強されたチームが上位進出をしており、そこにおいてはチームゲームの必要性を感じる。

目標と何をすべきか全員が熟知している、選手の一人一人の能力が引き出され

ている、リーダーが明確にいる。その3点が要素として備わっている。

まとめ

今回の企画提案型競技力向上に対し、県外対外試合によるチーム経験値を積み、よりよくするための可能性を感じたが結果に結ぶことができなかったことは残念であり、責任を痛感する。また、コーチ招聘に対し学習できたことを今後に活かしていきたい。沖縄においてはバスケットボールが盛んなことにより今後もチーム構成が混成になる可能性が高い中で勝利するための要素をつくりあげるために努力と結果を残したい。